

オスプレイ再開きよう以降

米軍と陸自、地元疑問も

防衛省は13日、停止を続けていた日本国内での輸送機オスプレイの飛行について、14日以降に再開すると発表した。昨年11月に起きた墜落事故後に停止していたが、調査の結果、日米両政府が機体の設計や構造に問題はないとの判断し、今月8日に停止解除を表明している。防衛省から飛行再開の方針を伝えられた関係

自治体からは、疑問の声があがっている。

防衛省によると、米軍と陸上自衛隊のオスプレイが段階的に飛行を再開する。再発防止のための整備や乗員の教育などの準備が整った部隊から飛び始める。ホバリングや基地周辺での飛行から始め、段階的に任務に対応する能力を回復していく

防衛省は、在日米軍や陸自の基地がある11都県

と関連の28自治体に対し、説明を終えたとしている。停止措置解除から1週間弱での再開方針について担当者は「日米双方の調整の結果。厳しい声があるのは理解している。より理解頂けるように努力したい」と述べた。

オスプレイ24機が配備されているという。

された米軍普天間飛行場

を抱える沖縄県宜野湾市の松川正則市長は「事故原因の特定の部分がしつかり説明されていない。納得できない」と不満を示した。沖縄県の玉城デニー知事も「危険極まりない欠陥機とされているオスプレイの配備は即時撤回するべきだ」ということを、これからも要求し続けていく」と訴えた。

防衛省によると、日本国内のオスプレイは13日時点では、在日米軍は普天間飛行場や嘉手納基地（沖縄県）などに計32機を駐機。陸自は千葉県の木更津駐屯地に14機を配備しているという。

（黒見綾、小野太郎）